

目次

基本方針	01
計画概要	02
配置計画	03
平面計画 - 1	04
平面計画 - 2	05
平面計画 - 3	06
外観計画	07
断面計画	08
環境計画	09
防災計画	10

基本方針

■ 基本方針

「宇土市新庁舎建設基本計画」で定めた4つの基本理念に基づき、基本設計をまとめています。

1 市民の安心・安全の拠点となる庁舎

～3つの力「安全力」「機動力」「業務継続力」で防災の砦となる庁舎～

- ・免震構造を採用し、大地震の被災直後でも防災拠点としての機能を確保します。【安全力】
- ・災害時は災害対策活動エリアと執務エリアを明確に区分し、市役所機能はそのままに災害対策活動拠点に機能転換します。【機動力】
- ・非常用発電機の設置や給水、排水機能の確保により、緊急時でも業務継続可能な計画とします。【業務継続力】

2 利用しやすく親しみを感ずる庁舎

～わかりやすく柔軟性の高い「ワンフロア窓口」庁舎～

- ・来庁者の主動線となる「うと小路」を中心に窓口や待合、市民交流スペースを配置したわかりやすい施設構成とします。
- ・市民窓口を1階に集約した「ワンフロアストップ窓口」とし、誰もが使いやすいユニバーサルデザインにすることで、市民の利便性を最優先した計画とします。
- ・時間外の利用が可能な市民交流スペースを設け、日常から市民が気軽に立ち寄れる庁舎とします。

3 まちづくりの拠点となる庁舎

～ひととまちを活性化する「にぎわい」庁舎～

- ・来庁者用駐車場は多目的広場と兼用し、様々なイベントや催しを行える場として市民活動の活性化と賑わいを生み出します。
- ・市民交流スペースは、多目的広場と一体利用が可能な造りとし、宇土中央線へ賑わいが表出することで、まち全体の活性化につなげます。
- ・宇土中央線と多目的広場に沿って低層部を設け、周辺のまちなみとの景観調和を図ります。

4 環境にやさしい庁舎

～宇土の自然を活かし調和する「宇土型環境デザイン」庁舎～

- ・太陽光などの自然エネルギーを活用し環境に配慮するとともに、「うと小路」を利用した自然換気、バルコニーによる日射制御などにより、消費エネルギーを抑制します。
- ・様々な省エネルギー手法により、快適性と経済性を両立する環境計画とします。

■ 計画の基本的な考え方



■ 宇土中央線から見た新庁舎のイメージ



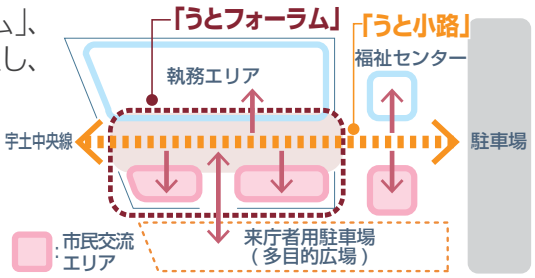
■ うと小路のイメージ

基本計画の4つの基本理念

- 1 市民の安心・安全の拠点となる庁舎
- 2 利用しやすく親しみを感ずる庁舎
- 3 まちづくりの拠点となる庁舎
- 4 環境にやさしい庁舎

「うとフォーラム」「うと小路（こみち）」を中心とした庁舎づくり

市民活動・市民交流の場となる「うとフォーラム」、市民の主動線となる「うと小路」を計画の骨格とし、基本計画の4つの基本理念に展開します。



「うとフォーラム」「うと小路（こみち）」が生み出す4つの機能

- 1 スムーズに連携する災害活動拠点
- 2 わかりやすい市民の主動線
- 3 まちとつながる市民交流拠点
- 4 宇土の自然を取込む環境装置

計画概要

(1) 敷地概要

建設地	：	熊本県宇土市浦田町 51
敷地面積	：	6,622.92㎡
建蔽率	：	80%
容積率	：	300%
都市計画区域	：	都市計画区域、近隣商業地域
防火地域	：	指定なし
日影規制	：	制限なし
道路幅員	：	北側：北段原線 7-8m、東側：浦田1号線 7.9-8m、西側：浦田築篋線 16.8-20.8m 南側：宇土中央線 20m
条例	：	熊本県やさしいまちづくり条例、熊本県景観条例（大規模）

(2) 建築概要

主要用途	：	市庁舎（事務所）
工事種別	：	新築
構造	：	R C造 一部議場屋根のみS造 （基礎免震構造）
建築面積	：	約 2,809㎡
延床面積	：	約 7,259㎡ (1 F／2,391㎡ 2 F／1,813㎡ 3 F／1,429㎡ 4 F／1,429㎡ RF／197㎡)
階数	：	地上4階 塔屋1階
最高高さ	：	20.0 m
基礎種別	：	杭基礎
昇降機	：	乗用EV：20人乗り1台（車椅子対応）、20人乗り1台（ストレッチャー対応、人荷用）
付帯施設	：	車庫、来客者用駐輪場、職員用駐輪場

(3) 駐車場概要

駐車台数	：	来庁者用 144台（思いやり駐車場10台含む）、公用車 77台、 職員用 321台
駐輪台数	：	20台（来庁者用）、30台（職員用）



面積表		市庁舎敷地				単位：㎡
棟種別		①新庁舎棟 (新築) RC造一部S造 基礎免震構造	②来庁者駐輪場 (新築) S造	③職員駐輪場 (新築) S造	④公用車車庫 (新築) S造	合計
床面積	R F	197				197
	4 F	1,429				1,429
	3 F	1,429				1,429
	2 F	1,813				1,813
	1 F	2,391	27	40	181	2,639
延床面積		7,259	27	40	181	7,507
建築面積		2,809	27	40	181	3,057
備考		思いやり駐車場 含む				

(4) 空調換気設備計画概要

熱源	：	電気式空冷モジュールチラー 冷房 85kW／暖房 85kW × 3台（想定）
空調	：	うと小路・市民交流スペース／冷温水式床輻射空調方式 1～4階窓口・執務室／床吹出空調方式（変風量機能付） 市長室・会議室等／個別空調方式（ビル用マルチエアコン） 議場／個別空調方式（ビル用マルチエアコン）
換気	：	第1種換気、第2種換気、第3種換気
排煙	：	自然排煙（階避難安全検証により1-3Fについては排煙免除）
中央監視	：	空調・衛生・電気監視端末、BEMS

(5) 給排水衛生設備計画概要

給水設備	：	水源 市水 給水方式：受水槽＋高架水槽方式（受水槽＋揚水ポンプ＋高架水槽＋加圧給水ポンプ） 災害時給水機能確保
排水設備	：	屋内：汚水雑排水合流式 屋外：雨水・汚水分流式 災害用汚水貯留槽設置
給湯設備	：	電気温水器または潜熱回収型高効率ガス給湯器による個別給湯方式
衛生器具	：	節水型衛生器具
消火設備	：	易操作性1号屋内消火栓（全館）、消火器（全館）別途工事、 パッケージ型不活性ガス消火設備（サーバー室）自主設置

(6) 電気設備計画概要

受電方式	：	普通高圧 三相3線式 6.6kV 60Hz 1回線受電 又は2回線受電
受変電設備	：	屋内キュービクル式（電気室内に設置）変圧器総容量 1,050kVA（想定）
電力貯蔵設備	：	屋内キュービクル式（電気室内に設置）蓄電池容量 ／非常用照明・受変電制御用 200Ah（想定）
発電機設備	：	屋外発電機 発電機容量 500kVA（想定） 三相交流 6,600V 燃料：A重油
照明設備	：	全館LED照明、JIS照度基準に準拠した照度 初期照度補正制御、外光（昼光）利用制御、プログラムタイマ制御、在／不在制御
コンセント設備	：	執務室／二重床用配線器具＋OAタップ 上級室、守衛室／接地極付 会議室／接地極付 廊下／接地極付
通信設備	：	構内情報通信網設備、構内交換設備（配管）、情報表示設備、映像・音響設備、 拡声設備、誘導支援設備、テレビ共同受信設備、監視カメラ設備、火災報知設備

(7) 工事スケジュール

工事	年	2020年（令和2年）												2021年（令和3年）												2022年（令和4年）												2023年						
	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5		
杭解体工事		1Ⅰ区	2Ⅰ区																																									
新庁舎建設工事																																												
移転・解体・改修工事																																												
外構工事																																												

配置計画

1. コンパクトな4階建てとし、多目的広場を最大限確保

- ・新庁舎は敷地南西側に寄せたコンパクトな建物配置とします。
- ・新庁舎南側は来庁者用駐車場とし、多目的広場兼用とします。
- ・日常の利便性を高める来庁者駐車場として、イベント開催時の会場として、災害時の防災広場として、様々な利用が可能な広場を最大限確保します。

2. 「うと小路」を中心に周辺施設と安全につながる歩行者動線

- ・宇土中央線から東側駐車場まで庁舎内外をつなぐ「うと小路」を整備します。
- ・隣接する福祉センターや別館との連携や相互利用が高まります。
- ・東側駐車場内に歩道を確保することで、歩行者の安全性を高めます。

3. 明快にゾーニングされた駐車場計画

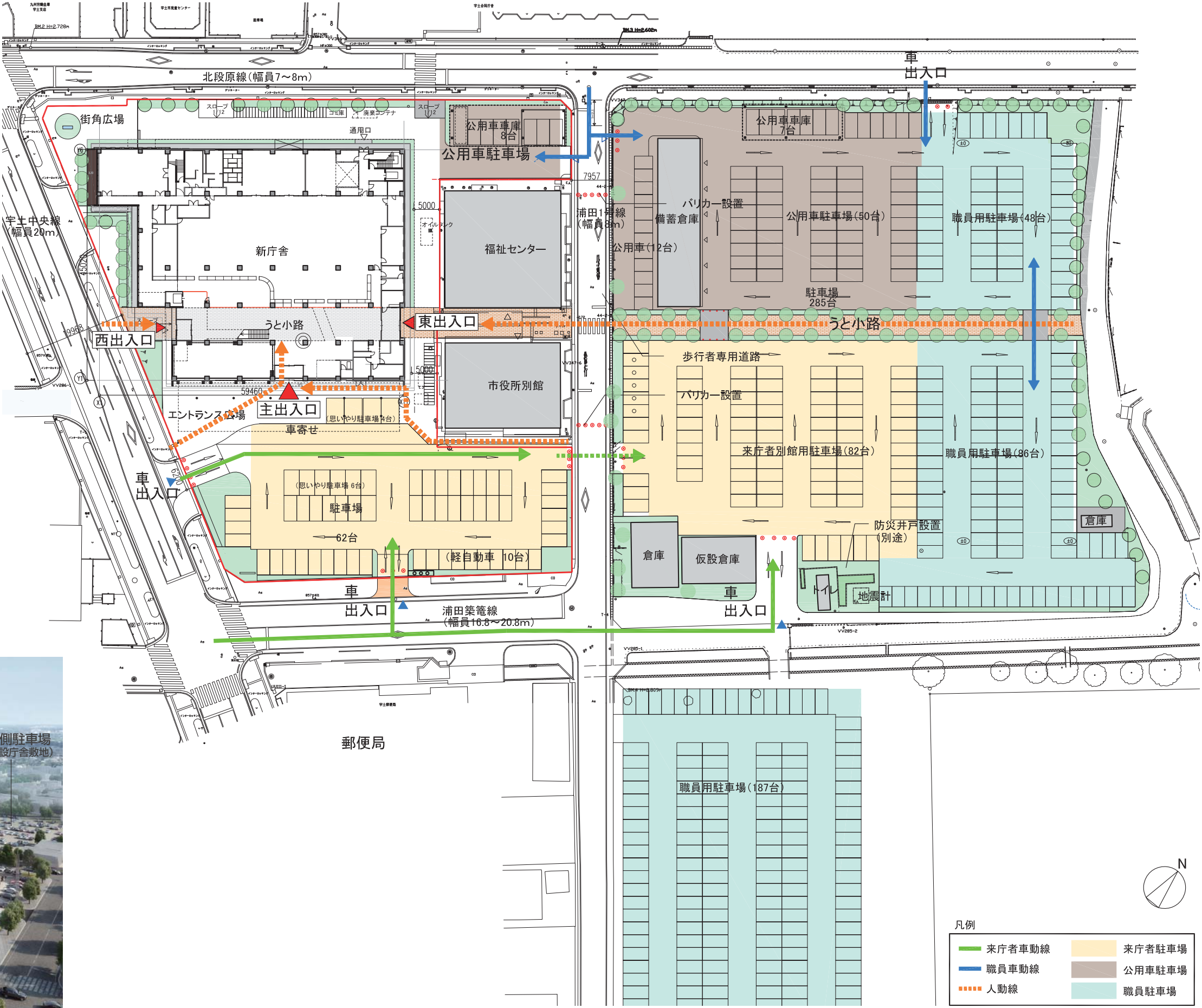
- ・来庁者の利便性に配慮し、新庁舎の近くに来庁者用駐車場を配置します。
- ・車の出入口は敷地西側、南側の2か所の計3か所とし、宇土中央線の車渋滞に配慮します。
- ・公用車、職員駐車場は東側駐車場の北段原線近くに配置し、来庁車の動線と分離します。

4. まちの景観と調和する建物ボリューム構成

- ・宇土中央線、多目的広場に沿って低層部を配置し、徐々に高層化させることで、低層のまちなみと調和した景観をつくります。



配置計画および庁舎ボリュームのイメージ



凡例

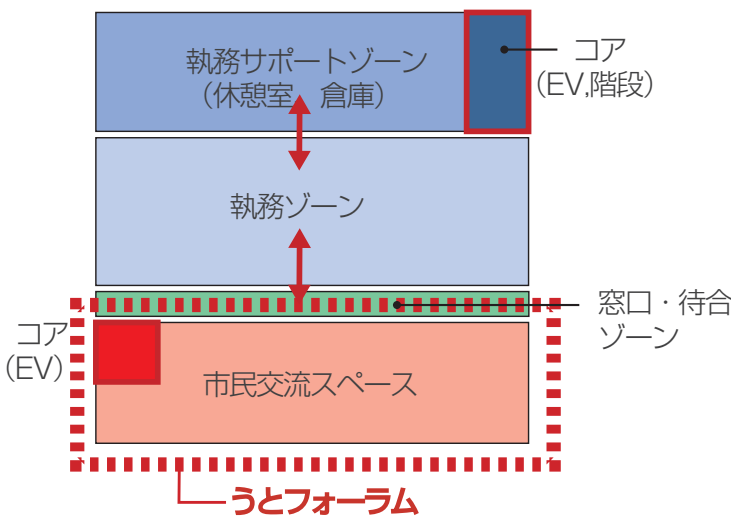
来庁者車動線	来庁者駐車場
職員車動線	公用車駐車場
人動線	職員駐車場

配置計画図

平面計画の考え方

来庁者動線が短く、職員連携が取りやすい「3つのゾーニング」

- ・「窓口・待合ゾーン」、「執務ゾーン」、「執務サポートゾーン」の明快なゾーニングとし、来庁者が使いやすく、職員連携が取りやすい計画とします。
- ・来庁者と職員の縦動線（EV、階段）を分けることで、わかりやすさとセキュリティを両立させます。
- ・窓口や執務室は、間仕切り壁のないフレキシブルなワンルームオフィス形式を基本とします。



1階 市民交流スペース・市民窓口フロア

- ・「うと小路」に面して窓口や市民交流スペース、EV、階段を配置したわかりやすい空間構成とします。
- ・市民窓口部門を1階に集約したワンフロアストップ窓口とします。【市民環境部・健康福祉部・会計課を配置】
- ・出入口は3か所設け、総合案内を設置することで、初めて訪れる来庁者にもわかりやすくアクセス可能な計画とします。
- ・うと小路、市民交流スペースは管理区画を設けることで、閉庁時も利用可能とし、利用者が気軽に立寄れる場をつくれます。
- ・キッズコーナー、授乳室、多目的トイレや売店、ATM、情報公開コーナー等を設け、市民の利便性を高めます。

ワンフロアストップ窓口

- ・ローカウンターを配置し、使い易さに配慮
- ・うと小路から窓口が見通せる、わかりやすい空間構成

「うと小路」

- ・来庁者の主動線となる2層吹抜けの空間
- ・エントランスを3か所設け、寄付きに配慮
- ・見通しが良く、EV・階段をわかりやすい位置に配置

エレベーター

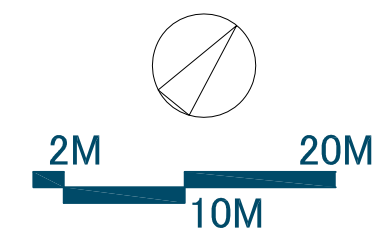
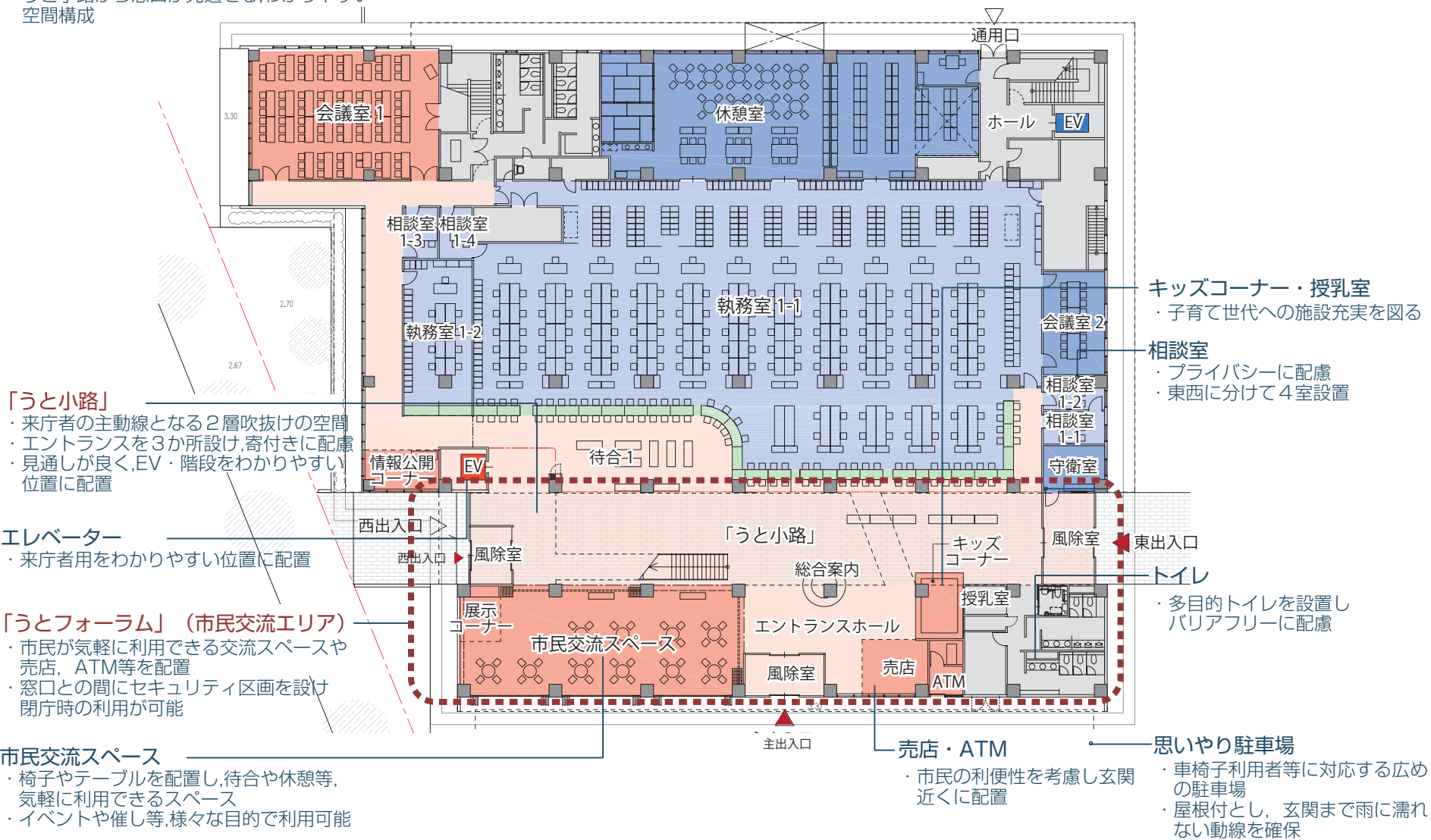
- ・来庁者用をわかりやすい位置に配置

「うとフォーラム」（市民交流エリア）

- ・市民が気軽に利用できる交流スペースや売店、ATM等を配置
- ・窓口との間にセキュリティ区画を設け閉庁時の利用が可能

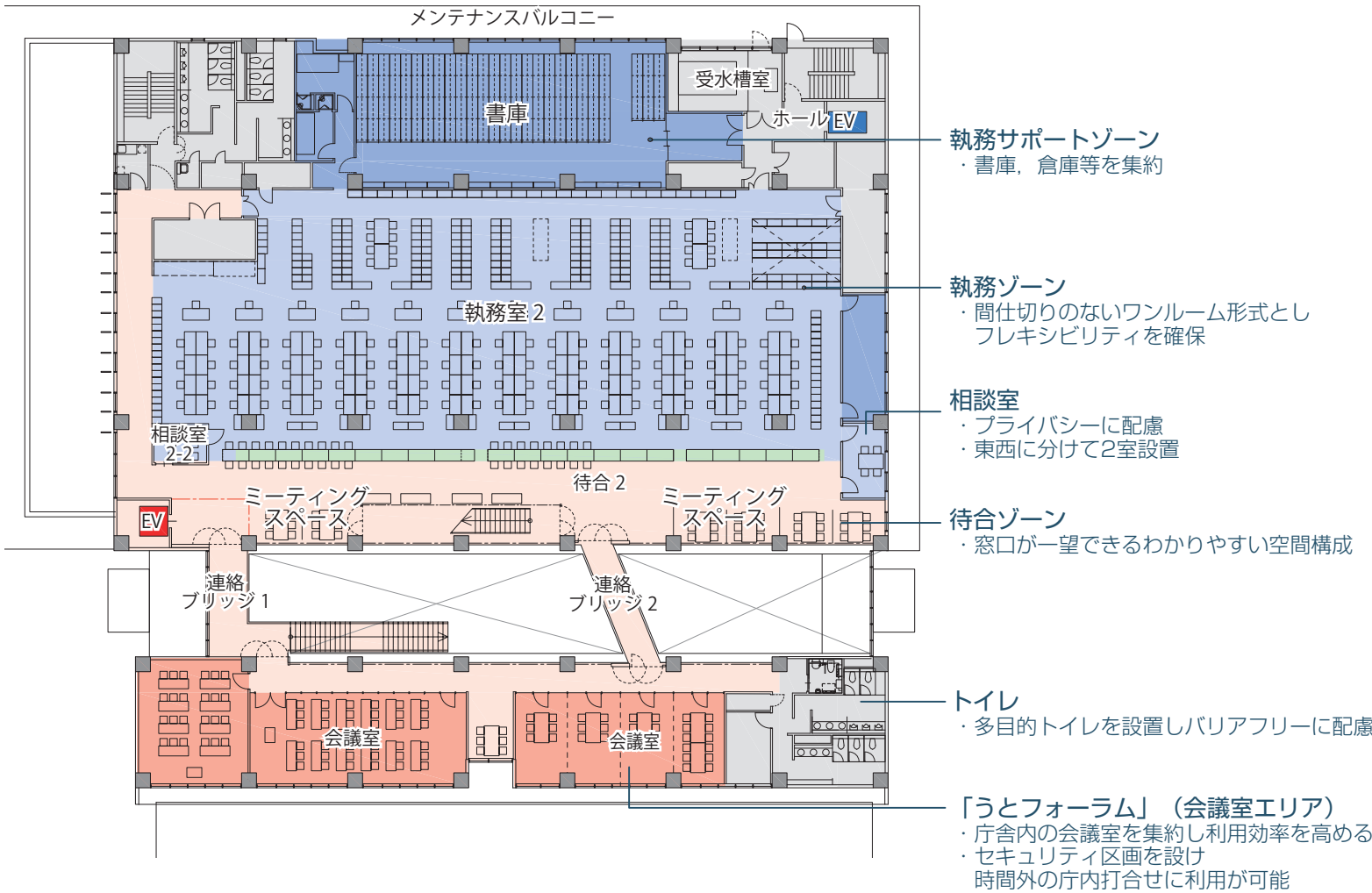
市民交流スペース

- ・椅子やテーブルを配置し、待合や休憩等、気軽に利用できるスペース
- ・イベントや催し等、様々な目的で利用可能



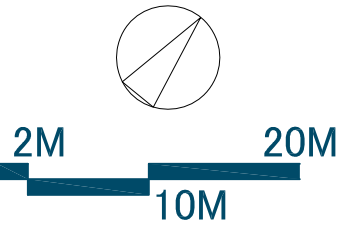
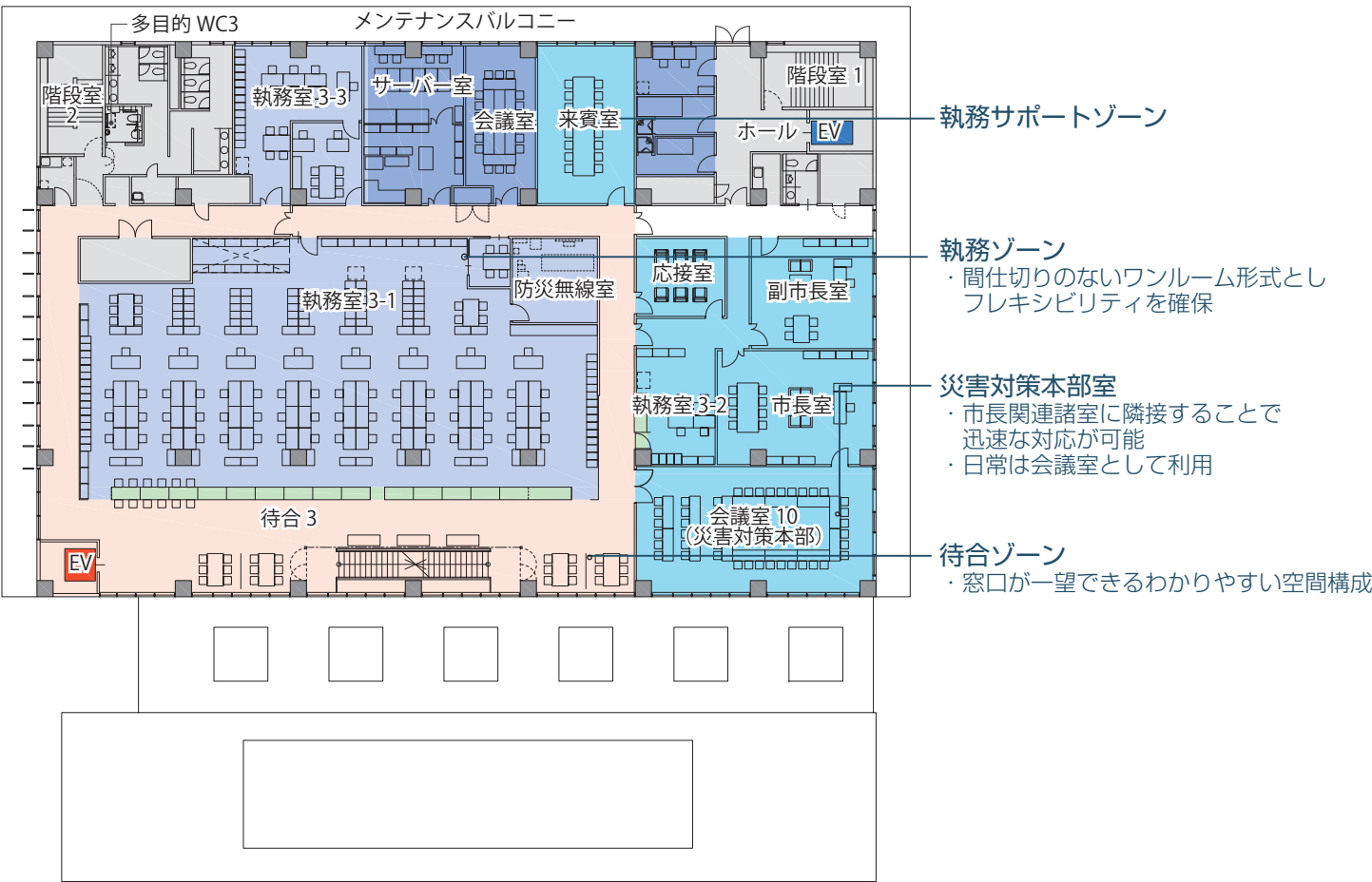
2階 一般執務フロア

- ・間仕切りのないワンルームオフィス形式とし、窓口が一望できるわかりやすい空間構成とします。
- ・建設部、経済部、農業委員会事務局を配置します。
- ・会議室を2階に集約することで、効率的な会議運営が行え、可動間仕切りを設けることで様々な会議形態に対応します。
- ・管理区画を設け、時間外の会議室利用が可能な計画とします。



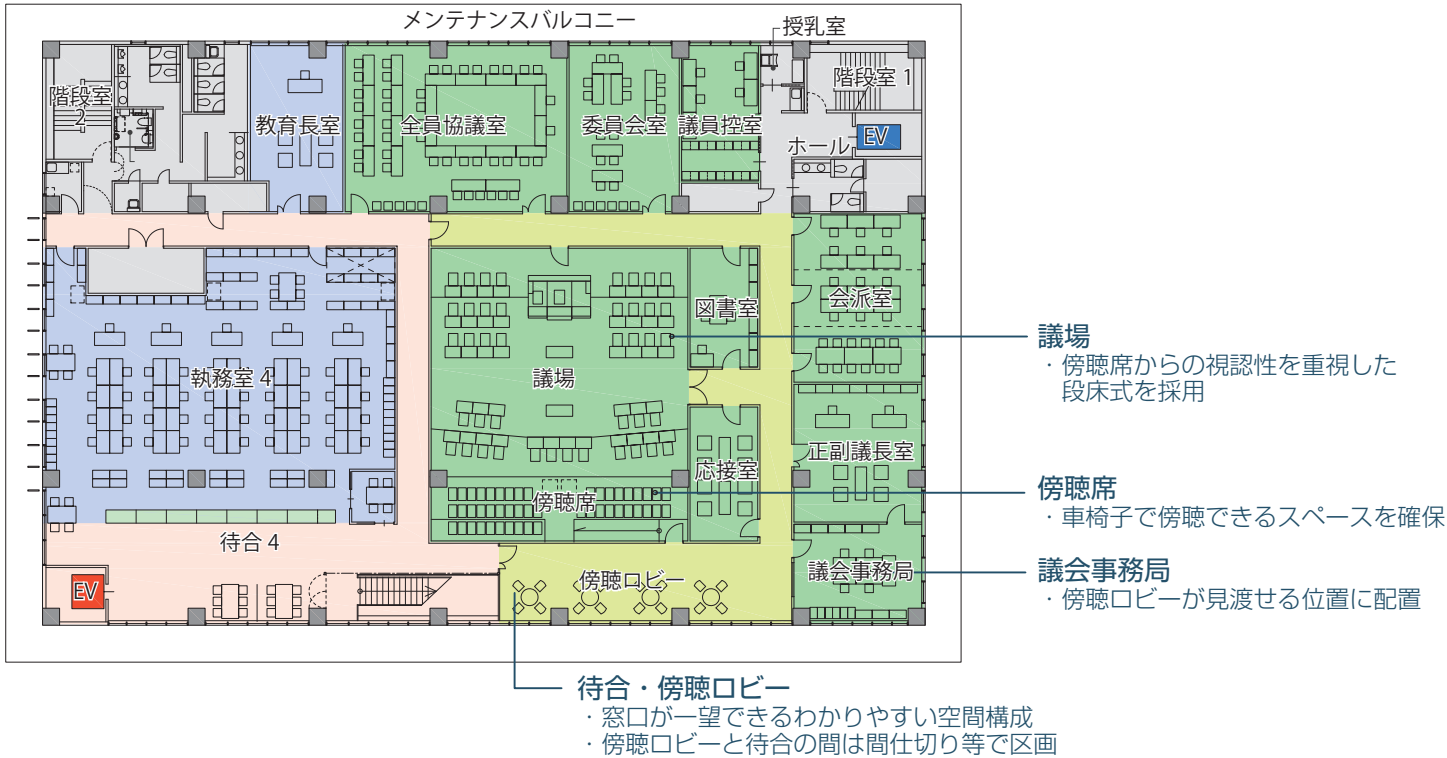
3階 市長関連諸室・一般執務フロア

- ・市長関連諸室、災害対策本部室、防災無線室を配置し、防災拠点機能を集約することで、災害時の連携を高めます。
- ・企画部、総務部、市長室関連諸室を配置します。
- ・災害対策本部室は、通常は会議室として利用し、スペースの効率化を図ります。



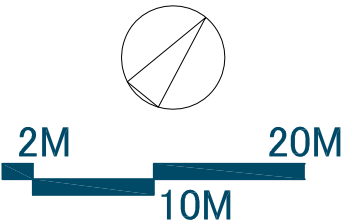
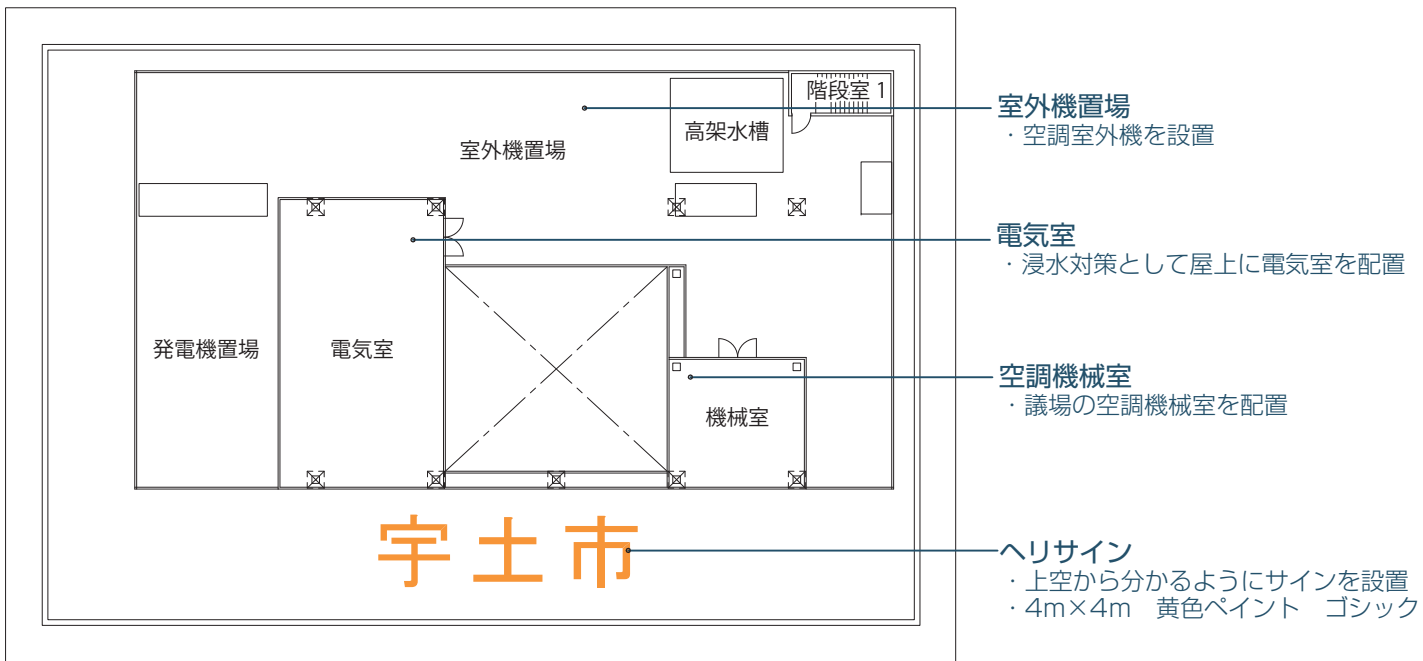
4 階 教育委員会・議会フロア

- ・教育委員会を西側に、議会諸室を東側に集約し、フロアゾーニングを明確に分けることで、独立性の高い議会エリアとします。
- ・議場は傍聴席からの視認性を重視した段床式とします。
- ・傍聴席の段差はスロープを設け、車いす利用者の傍聴スペースを確保します。
- ・議会開催時の傍聴者に配慮し、授乳室や多目的トイレを設けます。



R階 屋上階

- ・最上階に電気室を配置することで、保守点検が容易な計画とするともに、水害に対する万全な対策を行います。
- ・屋上外部には、非常発電機、空調室外機を配置します。



まちの景観と調和し、市民活動の賑わいがまちの景となる外観デザイン

- ・宇土中央線、多目的広場に沿って低層部を配置し、徐々に高層化させた建物ボリューム構成とすることで、周辺の低層のまちなみとの一体化を図ります。
- ・うと小路、市民交流スペースのある低層部はガラスを採用し、開放性が高く市民活動の賑わいが外部に表出することで、活気を感じる外観とします。
- ・上層階については、日射を遮る庇を兼ねたバルコニーにより、伸びやかな水平ラインと陰影のある表情をつくります。
- ・西面には西日を遮蔽する縦ルーバーを設置します。

素材感を活かし周辺環境と調和するシンプルな外装

- ・外壁はコンクリートやガラスなど、耐久性の高い素材をシンプルに構成し、素材感を活かした維持管理しやすい外装計画とします。
- ・うと小路は、吹抜け空間を活かしたガラス張りの開放的なつくりとします。
- ・市民交流スペースのある低層部に金属板を採用し、光の角度や時間によって外観の表情が変わることで、様々な市民活動の様子を表現します。
- ・あたたかみのある色調の木調ルーバーや杉板型枠コンクリートをポイントで採用し、市民に親しまれる色調とします。



コンクリート打ち放し



杉板型枠コンクリート打ち放し



ガルバリウム鋼板



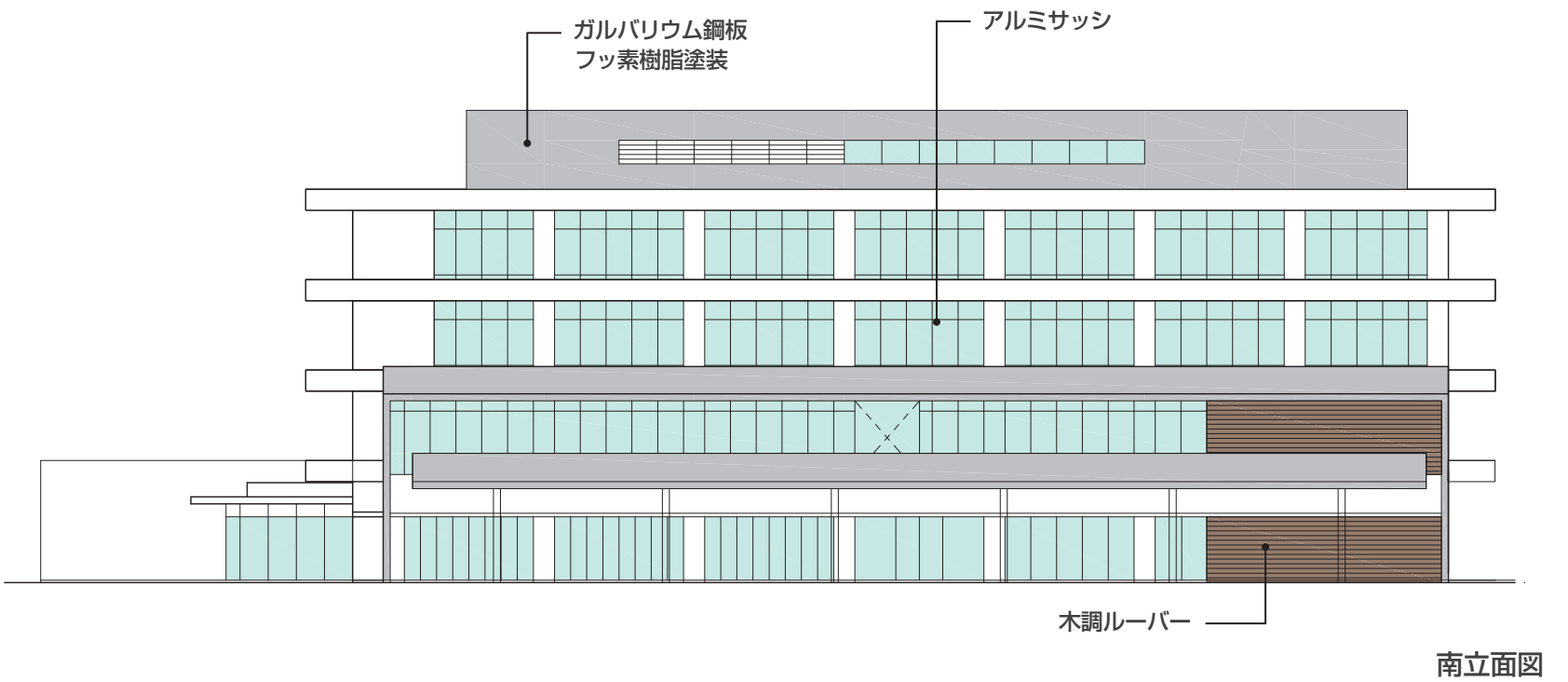
木調ルーバー



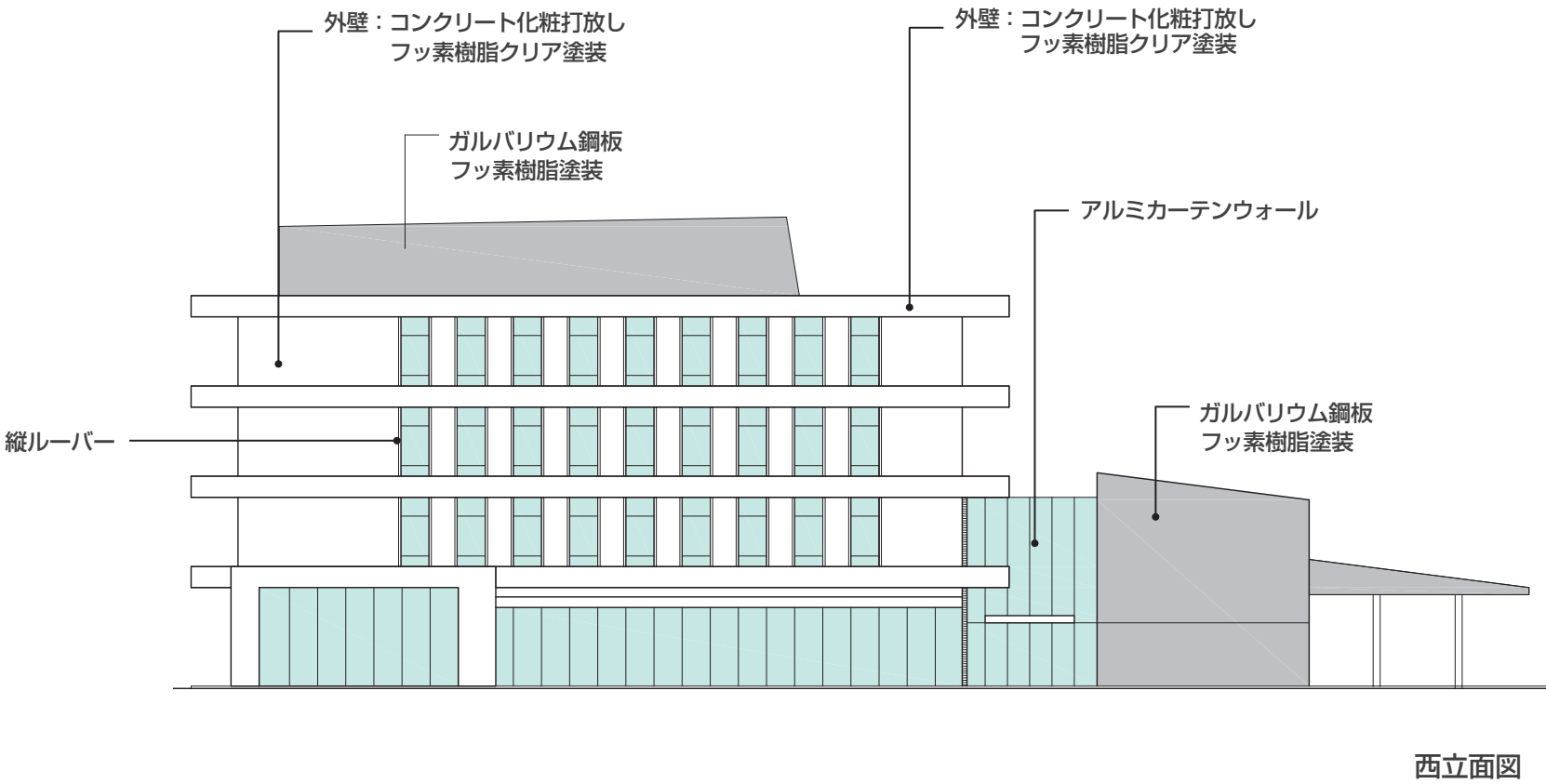
ルーバー



ガラス



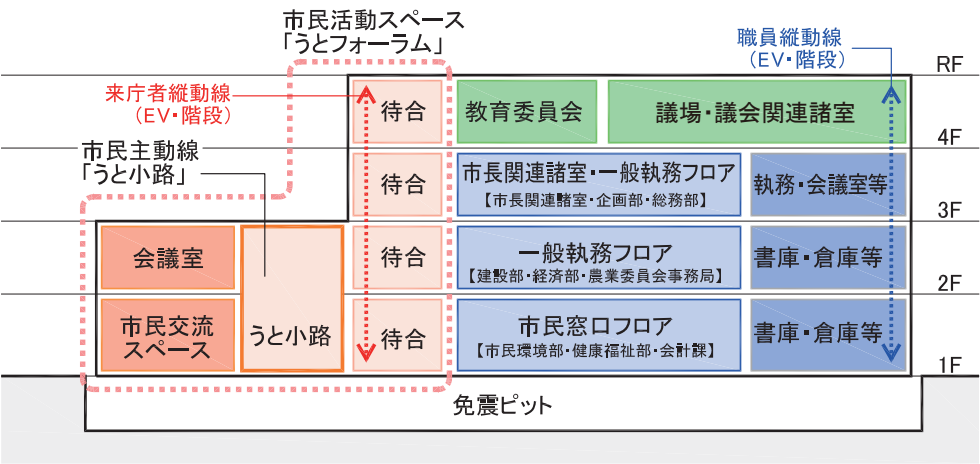
南立面図



西立面図

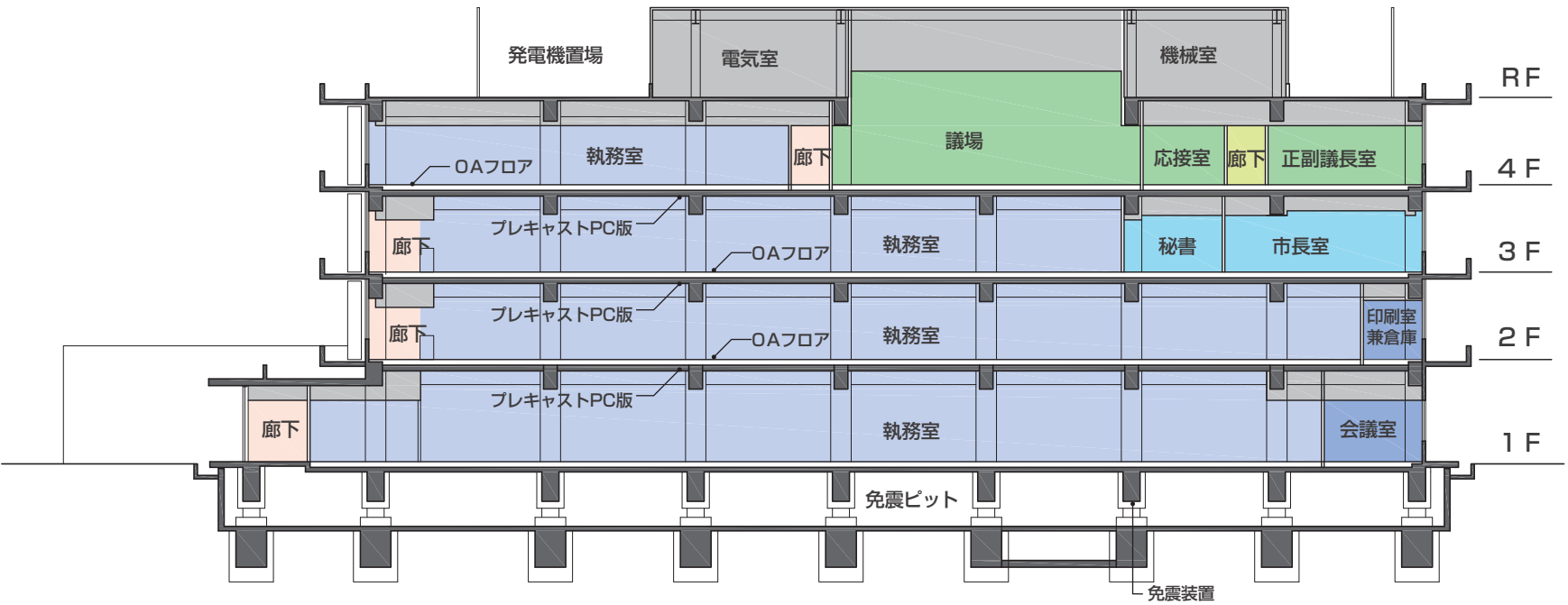
階層構成の考え方

- ・地上 4 階建てとし、各階を市民活動スペースと執務スペースに明確に分けたわかりやすい構成とします。
- ・縦動線は来庁者用と職員用を明確に分けます。
- ・来庁者用の縦動線は「うとフォーラム」の視認性の高い位置に配置します。
- ・1 階は、市民の利用頻度の高い窓口部署を集約するとともに、市民交流スペースを設けます。
- ・2階は一般執務および会議室を集約したフロアです。
- ・3階は市長関連諸室および一般執務室を配置します。
- ・4階は教育委員会と議会を配置します。
- ・新庁舎は免震構造とし、建物下部に免震装置のあるピットを設けます。

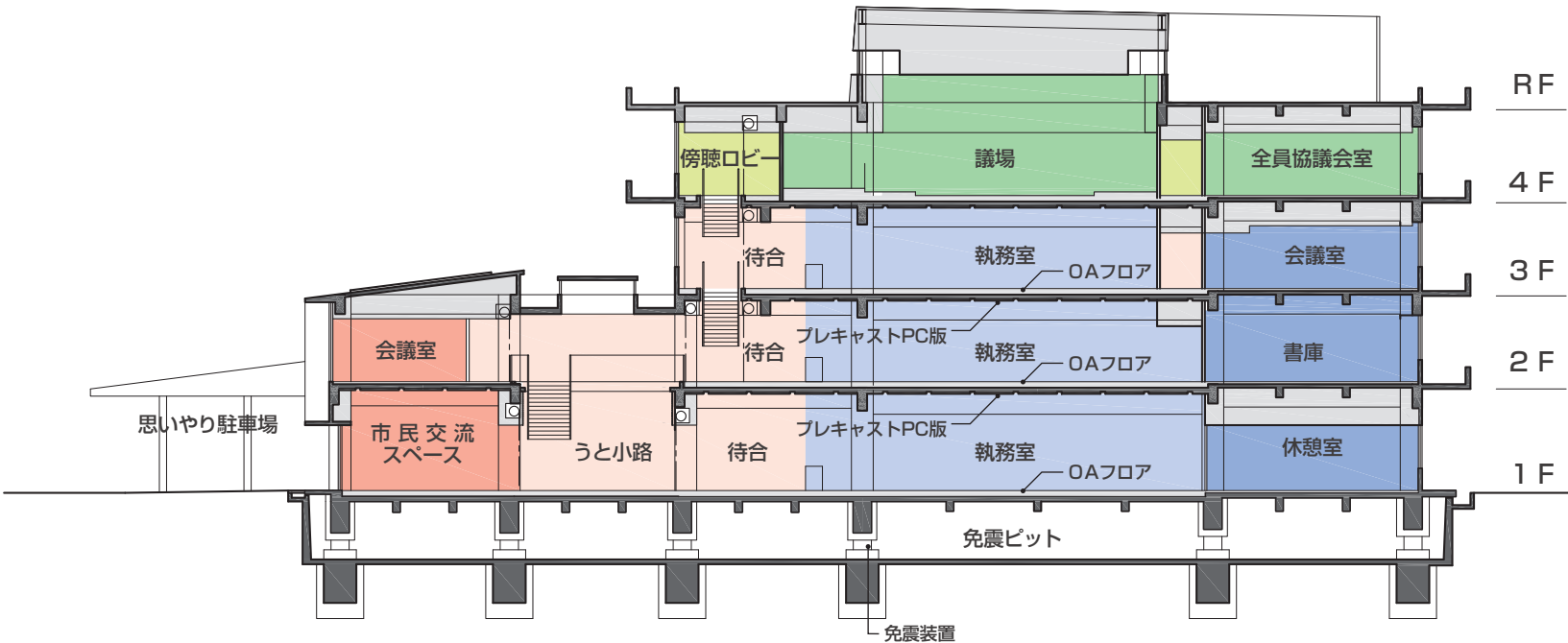


断面計画の考え方

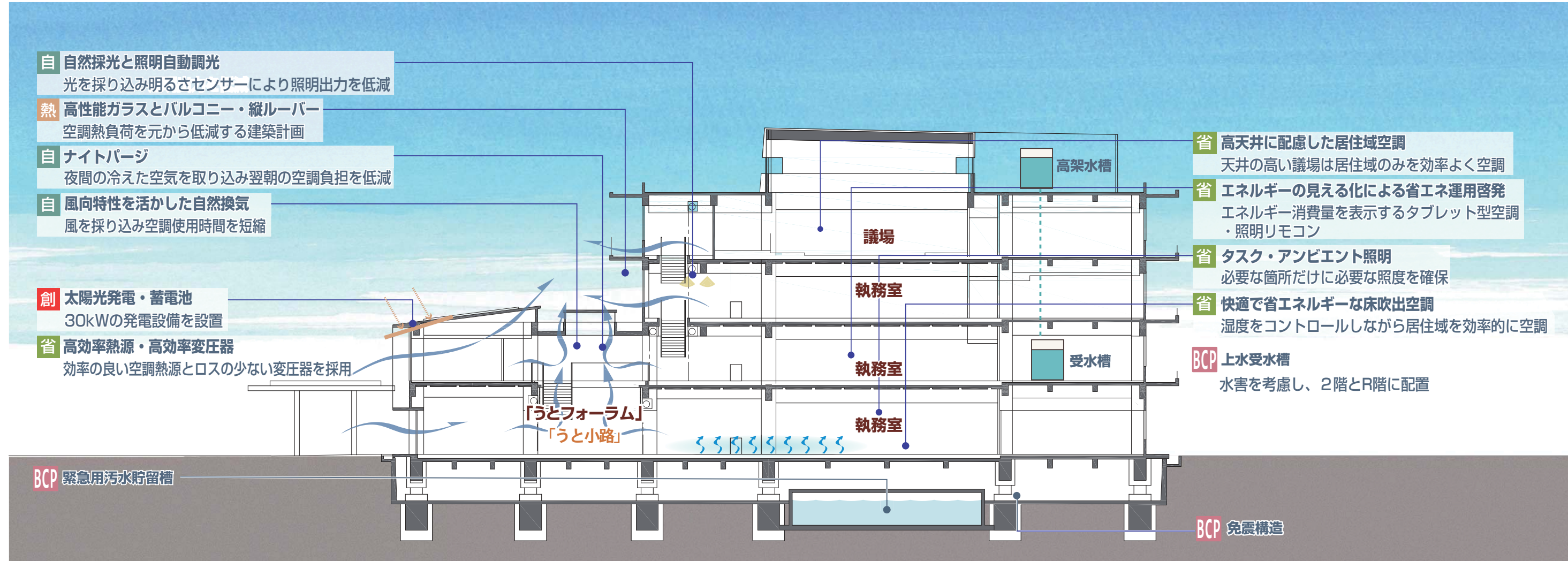
- ・ワンルーム執務室などの大空間は、天井にダクトの不要な床吹き出し空調を採用し天井を無くすことで、階高を抑えた計画とします。
- ・天井を無くすことで、地震時に天井からの落下物がなく、安全性を高めます。
- ・1階は待合ホール等の開放性を持たせるため、ゆとりのある階高とします。
- ・うと小路は2層吹抜けのわかりやすい空間構成とし、来庁者を上階に導きます。



西－東 断面図



南－北 断面図



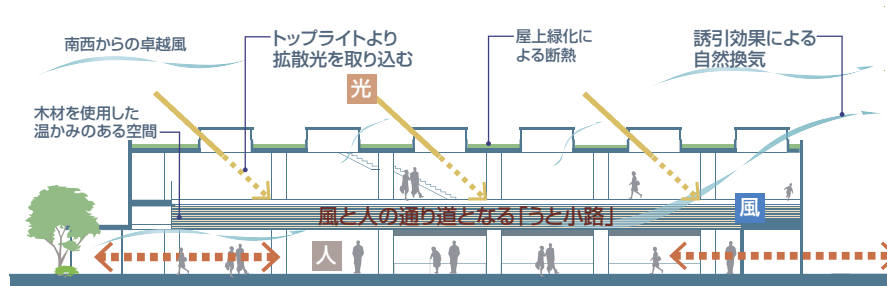
環境配慮事項

負荷を最小化する建築デザイン

- ・空調負荷を低減するため、奥行き深いバルコニーや高性能ガラスを四周に配置します。
- ・西日に対しては、縦ルーバーを設け日射を抑制します。

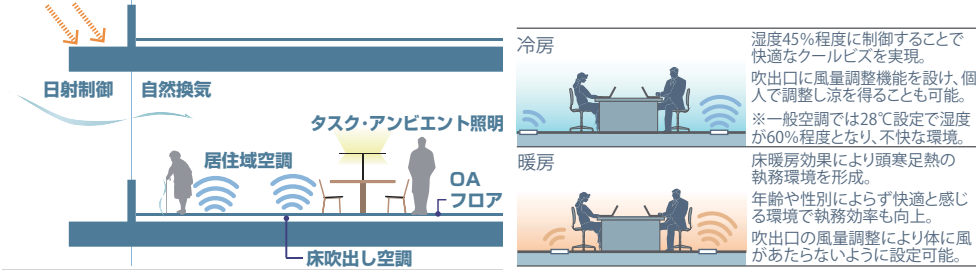
宇土の光と風を活かす環境装置「うとフォーラム」

- ・吹き抜け上部トップライトより自然光を取り込み拡散させた柔らかな光を市民交流エリアに導入します。昼光センサーを併用し、自然光の明るさに応じて照明を自動で調光します。
- ・中間期は風向を活かした自然換気を行います。
- ・夏でも夜間は気温が下がる特徴を活かし、夜の南西と北西からの風を建物内に取り込み冷やすことで、翌朝の空調負荷を低減します。



環境と執務者にやさしい省エネルギーで快適なシステム

- ・大規模な執務スペースは床吹出空調を採用し、居住域のみを適温に保つ効率的な空調を行います。
- ・タスクアンビエント照明を採用し、全体照明（アンビエント）を通常よりも半分の照度まで低減、手元照明（タスク）で必要な箇所に必要な照度を確保します。
- ・エネルギーの見える化による省エネ運用啓発のため、エネルギー消費を表示するタブレット型空調・照明リモコンを採用します。



BCP 対応事項

高度な防災機能を発揮する庁舎づくり

- ・災害による水道本管途絶を想定し、7日分の上水・雑用水の使用量を備蓄する受水槽を計画します。ただし、飲用水は衛生的な観点からペットボトルによる備蓄を想定します。
- ・災害による下水道本管途絶を想定し、7日分の汚水・雑排水を貯留できる緊急用汚水貯留層を計画します。
- ・太陽光発電設備には蓄電池を併設し、災害による停電や一般停電時に、発電した電力を安定的に使用できる計画とします。

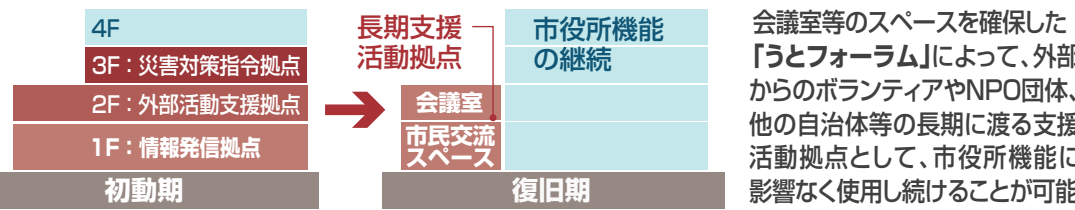
■ 防災計画

1. 敷地全体を活用し、支援受入体制と災害対策活動を展開

- ・多目的広場は、災害時には庁舎と迅速な連携が可能な災害対策活動拠点となります。
- ・東側駐車場は、支援受入スペースとしての十分なスペースを確保します。
- ・マンホールトイレや防災井戸を設置し、災害に備えます。

2. 明確なゾーニングにより、市役所機能はそのままに防災拠点に機能転換

- ・うと小路を中心に災害対策活動エリアと執務エリアを明確に区分することで、市役所機能を維持しつつ、スムーズな災害対策活動が可能となります。
- ・市長関連諸室に隣接して災害対策本部室を配置し、迅速な指揮系統を構築します。
- ・1Fの市民交流スペースや2Fの会議室エリアを執務室と明確に区分することで、市役所機能に影響なく長期にわたる復旧支援活動が可能なゾーニングです。



3. 災害時のインフラバックアップ

- ・災害時のインフラ（電気、上水、下水）途絶に備え、非常用発電機や受水槽、緊急汚水貯留槽を設置することにより、電力3日間、上水下水7日間分を確保する計画とします。
- ・自然換気や自然採光、太陽光パネル等の自然エネルギーを活用した計画とし、災害時のエネルギー消費を抑制します。



給水支援



支援物資配布のイメージ



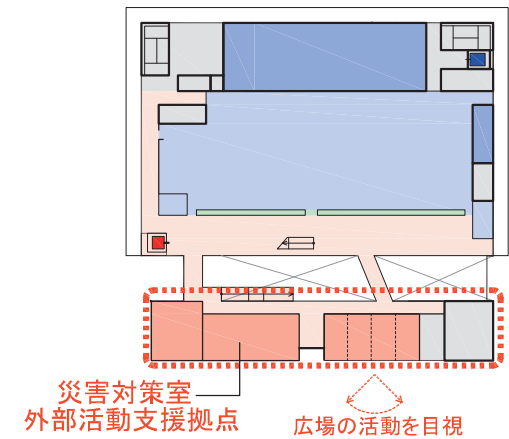
屋外避難スペースのイメージ



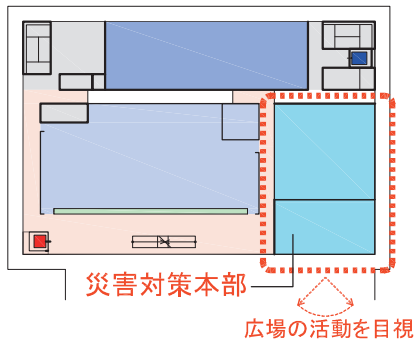
炊き出しスペースのイメージ



1F：情報発信拠点・避難スペース・災害時市民窓口等



2F：外部活動支援拠点



3F：災害対策指令拠点